



TITLE:

新企画：地域・子供文庫も展示参加へ 附属図書館創立百周年記念公開展示会 お伽草子 - 物語の玉手箱 -

AUTHOR(S):

CITATION:

新企画：地域・子供文庫も展示参加へ 附属図書館創立百周年記念公開展示会 お伽草子 - 物語の玉手箱 -. 静脩 2000, 36(3): 11-11

ISSUE DATE:

2000-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37555>

RIGHT:

新企画：地域・子供文庫も展示参加へ

附属図書館創立百周年記念公開展示会

お伽草子 - 物語の玉手箱 -

例年行われている秋季公開展示会が、創立百周年記念事業のひとつとして、11月24日から12月7日まで開催され2,000人(子供100人)の見学者があった。

今年のテーマは、“お伽草子 - 物語の玉手箱 - ”で、文学部大学院生の協力を得て、学内における“お伽草子”の所蔵調査から始まり、附属図書館、文学部、総合人間学部で144点96種を確認。この中から美しい奈良絵本を中心に90点を、関係部局の協力を得て一挙に公開することができた。その中の数点については、全挿し絵をパネル化・展示するとともに、巻物“たま藻のまへ”については、電子展示により全体をスクロールして見る試みをし、インターネット“電子図書館”でも公開している。

また、展示会始まって以来の企画と思われるが、一般公開、大学の地域公開などを考慮し、“おとぎばなし”として年齢層にかかわらず広く知られている作品も多く、小・中学生等子供たちにも公開することとし、地域・子供文庫等への協力依頼を行った。協力内容は、“浦島太郎”の挿し絵に子供たちが現代感覚で着彩する企画に、13文庫151名(1歳8ヶ月～中学3年生まで)が参加、250点の出展があった。これに、職員、学生による挿し絵の水彩・パソコン等による着彩60点もあり、展示会に華を添えた形となった。このほか、土・日限定であらかじめ準備した数点の画像にパソコンによる塗り絵(着彩)体験も行った。

来場者へは、希望により展示図録の配布を行い、子供たちへは、お伽

草子の挿し絵の中から数点を選び、手作りによる“ぬりえ集”を配布したが、お年寄りや教育関係者などからの強い要望もあり当初予定の5倍を作成・配布した。また、会期中は“お伽草子展ニュース”1～6号を発行し、みどころ・解説などを紹介、その他有志による生け花の提供など多彩な催しとなった。



来館状況は、社会人(主婦含む)が6割、中学生以下が1割。住所別では、地元京都が6割、近畿地区を除き、北は北海道、南は熊本まで22都道府県から140名の来館があった。

今回の展示会は、地域との連携・協力・公開と、子供たちをも参加といういまままでにない企画を取り入れたことや、予算の制約もあって、展示会WG・関係者の労苦は大変なものであった。アンケートに見られる全体の感想としては、普段見ることができない、また、きれいな資料が閲覧できてよかった、今後も公開を続けてほしい、各企画がよかったなど大変な好評を得ている。

